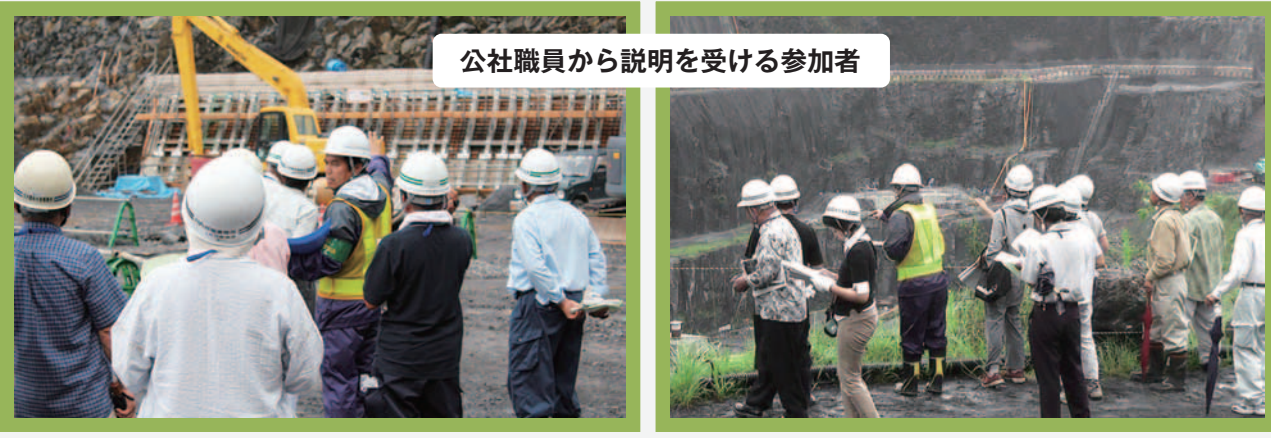


関係自治会による現地視察について



公社職員から説明を受ける参加者

去る8月28日に、地元自治会による管理型処分場工事の現地視察が行われ、関係5自治会の自治会員38人の方々が埋立地の底部や上段部から整備状況を見学されました。

参加者からは、「工事の進捗により、現場が大きく変わっていて驚いた。」、「地下水集排水施設の構造に安心するとともに、工事も一つ一つの過程が丁寧に進められている。」、「窪地内の濁水処理に、大変な労力を割いて工事が行われている。」等の感想をいただきました。

地域振興策の実施状況について



木場茶屋都線(瀬戸山橋)改修工事

自治会から要望のありました市道木場茶屋都線の瀬戸山橋の改修工事が完了し、交差点の見通しがよくなりました。

今後とも、地域振興策の円滑な実施に取り組んでまいります。

問い合わせ先

- 財団法人鹿児島県環境整備公社
〒895-8501 薩摩川内市神田町1番22号
電話 0996-21-1220
- 鹿児島県環境林務部廃棄物・リサイクル対策課
電話 099-286-2650

※この「環境整備公社だより」は、当会社ホームページ(<http://www.ep-kagoshima.or.jp/>)にて閲覧いただけます。

環境整備公社だより

VOL. 7

平成24年10月
鹿児島県
財団法人鹿児島県環境整備公社

エコパークかごしま安全監視委員会による施工状況調査について

「エコパークかごしま安全監視委員会」は、薩摩川内市川永野地区に整備する産業廃棄物管理型最終処分場の建設及び運営に当たって、地域住民の安全の確保及び生活環境の保全を図るため設置された組織で、関係自治会、学識経験者及び薩摩川内市の委員13人で構成されています。

去る8月31日に、本処分場建設工事現場の施工状況調査が、工事着工後初めて行われました。当日は、12人の委員が参加し、埋立地内の地下水集排水施設や覆蓋施設の基礎工事、防災調整池工事の施工状況、さらに、濁水処理設備の水処理状況について、環境整備公社職員の説明を聞くとともに、埋立地底面の岩盤清掃やコンクリートの打設状況等の調査・確認を行いました。

また、報道関係者も調査に同行し、委員の調査状況や場内の整備状況について報道がなされました。調査後の取材で、平田登基男委員長（鹿児島工業高等専門学校名誉教授）は、「施工状況を見る限り、非常に丁寧に施工されているという印象を受けた。」とコメントされました。

調査の様子



地下水集排水施設



埋立地底部(コンクリート打設)

調査箇所（埋立地上段部）からの施工状況



(※①～④は、説明文に対応しています。)

① 埋立地底部

万全な遮水工を造るため、埋立地底部の岩盤面をきれいに清掃した後、コンクリートを打設します。

このコンクリートの上に砕石を設置し、その上に、水密アスファルトコンクリートや2重の遮水シートなどで構成する遮水工を施工することとしています。



埋立地底部（コンクリート打設）

② 覆蓋施設の柱基礎

覆蓋施設の柱は、埋立地内に5本（鋼管内部にコンクリートを充填した柱）、埋立地外に105本（H型の鋼柱）が設置されます。

これまでに、埋立地内の3箇所の柱基礎が完成しています。



柱基礎

③ 地下水集排水施設

埋立地内への地下水・湧水の浸入を防止するため、集排水管・排水材・砕石により集水し、水質を確認した上で、阿茂瀬川へ放流します。

なお、万が一水質に異常があった場合は、浸出水処理施設に導水する構造としています。



地下水集排水施設

④ 濁水処理設備

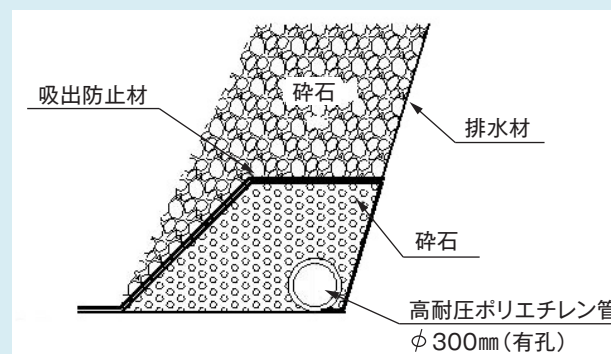
工事現場から発生する濁水や窪地に溜まっている水については、濁水処理設備で処理した後、阿茂瀬川へ排水しています。

濁水処理設備は4基あり、全部で1時間当たり270m³の処理能力を有しています。



写真の設備は1時間当たり 150 m³のもの

地下水集排水施設の解説



- ・ これまでの処分場では、集排水管や放流管にポリエチレン管が採用されていましたが、本処分場では、強度の高い高耐圧ポリエチレン管を採用しています。
- ・ 窪地から発生する湧水が滞留しないよう、直径300mmの管を敷設し、集排水します。
- ・ 高耐圧ポリエチレン管の周囲に砕石を敷設し、管を外圧から保護しています。これは、管の有孔部の目詰り防止にも役立ちます。